

一通の手紙。お手玉のもつ魅力

前略

朝夕めっきり涼しくなり秋も深まってまいりました。

宮中先生にはお元気で過ごしの事と思えます。

つい先日、コーラス部に入っている友人より電話があり、「文化祭で『里の秋』を歌うんだけど...おせどに木の実が...お背戸って何?」。私もあいまいな知識を辞書ではっきりさせた事でした。

第17回全国お手玉大会では、いろんな事が思いがけず一度にわかり「目からうろこ」でした。

備前信用金庫の「楽しいわが家」毎月読んでいますが、「雲子の詩帖」の雲子って不思議な名前だなあと思っていましたら、名前の由来がわかりました。そして何よりお手玉の会の会長が、その方と同一人物だったこと、うれしくてびっくりでした。

講演やシンポジウムのお話、伝承遊びを広めようとコマを廻す熱意ある人の姿。小学生や男の人までも私よりはるかに長く上手にお手玉をしていたこと、時間のたつのが速かったです。

残念ながら岡山からの団体参加はありませんでしたが、私は個人戦に参加しました。

十年程前、図書館でお手玉の本を見つけて読んだのがきっかけです。日本のお手玉の会があるんだ、40gのお手玉なんだ、世界には骨や木の実や三角

お手玉もあるんだ、私も一度行ってみたいものだ...: 願いはやがてかなくなりました。あきらめなければ何事もかなうものです。

J R (農協) 岡山女性部のお手玉大会がある事も知り参加しました (団体・個人も)。きっと日本のお手玉の会の影響でしょう。

お手玉は作るのも楽しみです。自分で作ったあづきを入れたり、ハブ草の種やお茶の実などいろいろ入れて、音を聞いたり手触りで「何が入ってる?」と孫と当てっこしたり、「ほっこり」するひとときです。

これからますますのご活躍とご健康をお祈りいたします。

楽しい二日間でしたのでお礼まで。

平成24年10月12日

松島富美

宮中先生

ご紹介のコメント

岡山県和気郡にお住まいの松島富美さんから、第17回全国お手玉遊び大会に参加されたの感想が、宮中雲子会長のところへ届きました。ありがたい、うれしいお手紙でしたので、ご紹介させていただきます。

松島さん、ありがとうございました。

(編集部)